

2024 年度 総合政策学部 FD 活動報告

総合政策学部では、2024 年度の FD 活動として、教学マネジメントの深化に向けた議論を掲げた。これは、FD 活動が教学マネジメントを支える基礎の一つに掲げられているためである（『教学マネジメント指針』）。これについて、南山大学でも 2024 年度より、学生がアセスメントテスト（GPS-Academic）を受検する体制が導入された。それに基づき、今後は「一人一人の学生が自らの学修成果を自覚し、エビデンスと共に説明できるようにするとともに、DP の見直しを含む教育改善にもつなげてゆくため、複数の情報を組み合わせて多元的に学修成果・教育成果を把握・可視化」することが求められる。

したがって、2024 年度の具体的な方針として以下の 3 点を挙げた。

- ① 総合政策学部における多面的な学修成果とはどのようなものであるか
- ② 明らかにされた学修成果はどのような数値により把握されるべきか
- ③ 数値化された学修成果の分析

以上の 3 点について、2 回の FD 研修会を開催した。その内容は以下のとおりである。

- ① FD 研修会「教学マネジメントデータによる総合政策学部の分析とシミュレーション」（2024 年 9 月 18 日）、オンライン会議（Zoom）、参加人数 20 人、講師：澁谷英樹准教授（総合政策学部、FD 委員）。

2023 年度 CP・DP 適切性にかかる基礎データには、前年度に総合政策学部の学生が科目を履修・修得した人数、修得状況、最終的な成績の分布、および科目の開講時期等の基礎的な情報が収録されている。本研修会では、このデータを用いて頻繁に履修される科目を組み合わせることで 1 年次から 4 年次までの時間割を作成し、最も早期に単位を修得することができる組み合わせを検討した。

それによると、①総合政策学部に置かれた 3 つのコースのうち、公共政策コースがより早い時期に科目を修得できる傾向にある。②履修が非常に困難な科目としてラテン語、履修困難な科目として秋学期生の総合政策と倫理などが挙げられる。③データの活用方法として、新たな DP は科目のいずれかで学習する機会があることが確認された。

- ② FD 研修会「アセスメントテストの結果から見た今時の総合政策学部生の傾向」（2025 年 2 月 5 日）、オンライン会議（Zoom）、参加人数 21 名、講師：澁谷英樹准教授（総合政策学部、FD 委員）。

まず、2024 年度のアセスメントテスト（GPS-Academic）のモニター受検は、1 年次、3 年次のそれぞれの学生に対して実施された。そのため、1 年次の受検者と 3 年次の受検者

はそれぞれ独立した標本であり、教育の成果を現すものとしては未だ扱えない。しかしながら、今後、アセスメントテストを有効に活用するには、総合政策学部の学生がもつ能力を平均像から観察することが求められる。

そこで、アセスメントテストの平均値と標準偏差から、総合政策学部を含めた各学部のスコアの分布を復元し、そのデータを回帰分析することにより学部間のスコア差を明らかにした。

それによると、1年次は全学平均よりも低いが3年次には全学平均に近づいている。これが学部の教育による成果であるかについては、今後の検証が待たれるところである。また、本研修会ではデータの制約から平均化を前提としていたが、今後は個票データを活かす方法も求められる。

③ 日常的授業参観の実施「環境調査法」(2024年5月11日・12日)、設楽原歴史資料館、大島ダム等

FD委員の活動に関連して、2024年5月11日から12日までの2日間にわたって、「環境調査法」のフィールドワークにおいて日常的授業参観を実施した。これは、FD委員・澁谷がフィールドワークを研究手法として全く採用していないため、大いに知見を得られると考えられたためである。

このフィールドワークの主題は、2日目に実施される、地域の①商店街の現況調査と②土地利用調査であった。①商店街の現況調査は、(1)現況、(2)店舗の属性、(3)来店者の属性から構成される。②土地利用は、(1)農地、(2)林地、(3)集落・住宅地、(4)商業施設、(5)公共施設、(6)その他の施設のいずれに属し、作物、新旧、規模等をヒアリングにより調べるものである。

その具体的な報告は、出張申請書様式第2として提出したとおりである。